

55歳のつぶやき

在京飯田高校同窓会の幹事学年は55歳。社会人になったころ、55歳は定年を迎える年だった。今の時代、まだまだ世の中を引っ張っていかなくてはいけない世代の同窓生たちは、どんなことを考えているのだろう。

高35回生10人から

■一生懸命

飯田は私の第二の故郷、父の転勤で、中学・高校と多感な時期を過ごした自慢の場所。なかなか飯田に行く機会もなく、50歳を過ぎてから同窓会で飯田に帰った時に見た山並みは、あの時と変わらない。入学してすぐに覚えた校歌に「都の塵も通ひこぬ……」なんてところなんだと思ったことも思い出す。

そして、新人類と呼ばれた我々は、既に55歳。いったい新人類は何を変えたのだろうか、自分は、何をやって来たのか、社会人になって、一生懸命やって来たことには間違いはない。幸せなことに、失敗も困難も自分の中では、なぜか勝手な武勇伝に変わっている。今、一番頑張っているのは、8年ほど前から手解きを受けはじめたテニスだったりする。けど、武勇伝には少々遠そうだ。

●武藤剛志 飯田市丸山出身 電気機器メーカー勤務

■おっさんノスタルジア

バイクに乗りたくなかったのは3年前、十分おっさんになった52歳の夏だった。ふらっと教習所に行き、3か月で自動二輪の免許を取った。はじめて中型バイクで里帰りをしたとき、高校時代、原付で天龍村から高校までの通学中、2回ほど死にかけたことを思い出した。ほどなく、高速道路をもっと安全に走れる大型バイクに乗りたくなり、また教習所に通った。卒業検定で事故って左膝を骨折するというハプニングがあったものの、何とか期限内で卒業。それから私のモットーは、「骨は折っても心は折らない」になった。

大型バイクで飯田市にも何度か行ってみた。市内を流すと、「あ、ここ歩いたな」と懐かしい道に再会する。旅は多くのお会いや感動をくれるが、自分の根っこ、心のふるさとを再発見する旅も素敵だなと感じた。

●米山博史 天龍村出身 医業系会社

■2020年初夏に思う事

50代前半、子どもたちの成長につれ、自分のために費やす時間が劇的に増えました。郷里にいるときには全く興味も無かった登山を趣味に加え、第二の人生をいかに生きるかばかりか？ などとぼんやり考えながら、人生の後半戦の準備を少しずつ進めておりました。

ところが、年明け間もなく押し寄せてきた

新型コロナウイルスの世界的な流行、そして大きな経済打撃。顧みると、我がサラ

リーマン人生における災害による直撃は意外に多く、阪神淡路大震災、アメリカ同時

多発テロ、東日本大震災、タイ洪水、熊本

地震と大物だけでも5回も経験してきました。

「必ずや、元の状態に戻る」という

確信の元に、その都度苦難を乗り越えてき

ましたが、今回は様子が違うようです。

ニューノーマルという言葉の通り、生活様式そのものを変えなければいけないとは。スマホすら使いこなしが怪しいこの親父には、とても無理があったりもするのですが、呑気にはさせてもらえない。仕事もプライベートも、やらないといけないことがまだまだありそうです。

●富永陽一 中川村出身 電機メーカー勤務

■武漢の思い出と東京2020サッカー日本代表を応援

武漢にはサッカー日本代表の応援で5年前に2回行き、武漢名物の熱乾麵（ルーガンミンエン）を食べ、黄鹤楼にも上りました。AFC・U16女子サッカーの応援。循礼門飯店から新華路体育場に行く途中に武漢疾病予防控制中心があり写真をはちり。体育場で日本国旗数枚と中国国旗1枚をスタンドに貼りました。地元の小学生達が日本国旗を外そうとしたので、引率教師が大慌て。試合開始前、無線を持った人が来て、全て日本国旗を外せと言う。拒否すると、多数の保安・警察官に囲まれました。「なら、おまえらが日本国旗外せ」と言って、私が貼った中国国旗を先に外そうとしたら、「おおい」と大荒れムードに。ラッパを配った周りの小さな子どもたちもドン引きでした。東京オリパラは延期になり、開催できるか心配です。

●小林弘里 阿南町出身 環境情報科学センター研究員

■いきいきと目の前に蘇る記憶こそ……

野底山から高松まで緩やかに下りゆく山裾の上方に、家があった。高校時代、朝は寝坊常習。が、昼食にあの教室からは購買部の調理パンにありつけない、となれば慌てて弁当を適当に詰め、自転車に飛び乗り

グングン加速。必死の思いで、校門までノーブレーキで滑り込む。入部したソフトボール部の剛速球は、ずつと水泳で水掻用だった手指にはきつく退部。勉強に勤しむ訳もなく、友達と過ごす時間が唯楽しかった。ダメな自分を抱えて帰り道、自転車を押した。空高く澄み切った空気。ゴボゴボと豊かに流れ来る水路の音。四季折々に美しい風越山と青く煌めくアルプスを見上げ、頑張らないといけないなあと思っていた。

55歳、忘我で辿りもう帰り路。今空を仰げば、IT社会が進んでもアルゴリズムでは定義し切れない自然と人の心の森羅万象。此処で果々と続く多彩な臨場感の記憶こそ、人生と思う。謳歌しよう、礎の故郷に感謝して。

●太田（旧姓・杉戸）真由美 飯田市上郷出身 地方公務員（嘱託）

■自分の人生は自分のもの

40歳を前にして心機一転、福祉の仕事に就いた。現在は基幹相談支援センターという障害のある人達のための相談窓口にいる。相談内容は障害に関する事に限らず、最近是不登校や引きこもりの相談が増えている。生きづらさは障害の有無よりも環境に因るもの、人との関係の中で生まれることが多いようだ。のほほんとした私には分からなかったが、真面目な人ほど親の期待に応えようと頑張ったり周囲の歩調に合わせたりのした挙句、疲れて社会に出ることをやめてしまう。

みんな、もつと自由になろう！ 親の価値観から、世間の常識から解放されよう！ 真面目でなくていい。「普通」である必要はない。自分が納得できる人生ならいいのだ。こんなことをひしひしと感じる日々である。

●野見（旧姓・林）和子 松川町出身 基幹相談支援センター勤務

■故郷の山々

昔、学校の屋上に登って周りを見渡した時によく感じたことは、目に飛び込んでくる山並みに、「なんて窮屈な景色なんだろう」ということでした。遠くを見渡しても山の奥にさらに高い山があるだけ。「せめて一方向くらい遠くまで開けていたら。とにかく山が邪魔なんだよー」と疎ましく思っていたものです。そんなわけですから、三度の飯より山登りが大好きなオヤジとは正反対に、山や自然に対して興味も感じませんでした。

ところが、数年前から親孝行のつもりで両親と一緒に山歩きをするようになると、子どもの頃は意識したことが無かった、山の空気の清々しさ、鮮やかな木々の緑、鳥の鳴き声、川のせせらぎ、その全てが、得も言われぬ安らぎを与えてくれることに気づいたので。

いつの日からか、田舎に帰るたびに、邪魔だと思っていたあの山々の、青い山肌を、雪を頂いた峰々を、目に焼きけるように眺め続けています。

●仲田 暁 飯田市大通り出身 証券会社勤務

■山から海へ

私は、現在、新宿でダイビングスクールを経営しています。スクールのフィードルは、伊豆半島。主に静岡県伊東市宇佐美を拠点。

仕事、そして趣味の「潜る」をテーマに、北海道から沖縄はもちろん、太平洋、インド洋、カリブ海、紅海等々、変わったところでは、ブラジル・アマゾン川の支流タパチヨス川にも行きました。アマゾンでは、熱帯雨林の中、サルやカピバラ、カワウソ、そして澄んだ湧水、沖繩のサンゴ礁でみるような白い砂、本当に感動の連続でした。アマゾンの豊かな自然や生態、その昔、アンデス山脈隆起前は、太平洋とつながっていたと想像するだけでワクワクします。

■「新しい生活様式」とパッハ

このところ通勤を徒歩にした。電車で30分、歩いてみたら40分、ならば満員電車を回避でき、運動不足解消にもなる。一石二鳥ではないか。

今更だけど、歩いてみると知らなかった場所やお店を発見するものだ。

ビルの植込みを角刈りにしている女の子がかっこよく、プロはすごいなあと思ったり、ひっそりと新鮮な野菜を安価で売っている八百屋を発見したり。明治創業の日本酒に拘わる酒屋を見つけた時はガッツポーズをしていたし。

また、パッハという居酒屋ができたので、落ち着いたBGMが流れるのかなと想像して、早くこのお店で飲めるのを楽しみに始めたそんな折、店長らしき人がいたので思わず「やはりパッハが好きなのですか？」と聞いてみた。「ええ！好きなんですよ、社長が。マイパッハ」えっ？車のパッハ!? 大作曲家のパッハじゃないの？

パッハといえば、I O C会長もそうだということも思い出し、まあそんな発見もあるから徒歩通勤続けてみようかな。いつまで続くかわからないけど。

●牧野（旧姓・北原）楊子 飯田市出身
クラシック音楽関係勤務

■55歳にして思うこと

平均寿命が80歳を越えた。

予定では50歳で仕事に一区切りをつけ、ゆったりとした余生を送るつもりだった。

しかし、そうそう人生は思い通りにいくはずも無い。計画などあつてないようなもの……ではないが難しい。

そもそも本当にこの仕事やりたかったのか……。

35年もやっているのだから自分に合っているのでは？ 他の仕事が出来ないから仕方なく続けているのでは？

全て後付け。

刻々と迫る緊張感、ストレス、スリル、これらを抜けた時の甘美な味わい。それを感じたくて続けているんだろう。極上の麻薬のような一度経験してしまうと抜け出せない何か。後何年これを続けられるのだろうか……続けて良いのだろうか……。

先人達は人生の折り返し地点を過ぎ、何を思い、生きたのか？ 何を考え、生きたのか？ 何を行動したのか？

●額額 勇人 山本出身 映像プロデューサー

飯田高校で、物理や生物、地学をもっと勉強していれば……。そして、どこへ行っても自然豊かな飯田、遠山谷で育つたことに感謝しています。

●和田克英 飯田市南信濃出身
ダイビングスクール経営